

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成24年度病害虫発生予察特殊報第2号について（送付）

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jpjn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第2号

平成25年3月13日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 チャトゲコナジラミ *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya and Kasai

2 作物名 ヒサカキ

3 発生確認および発生状況

平成25年2月に鹿児島県本土内のヒサカキにおいて、トゲコナジラミ類幼虫の寄生を確認した。採集した幼虫を門司植物防疫所に同定依頼した結果、チャトゲコナジラミであることが判明した。

幼虫の寄生が確認されたヒサカキは、平成24年11月に本種の既発生県から導入された苗木であり、これらについては寄生の有無にかかわらず全て抜根し、焼却処分を行った。

なお、本種の寄生が確認されたほ場周辺を調査した結果、近隣の茶園での寄生は確認されなかった。

本種は平成16年に京都府のチャで初めて確認され、本県では平成24年に離島において発生が確認されているが、県本土ではこれまで確認されていなかった。

4 形態及び生態の特徴

(1) 形態

ア 成虫の体長は雌が約1.3mm、雄は約1.0mmとやや小さい。前翅は紫褐色で不整形の9個の白斑があり、虫体は橙黄色であるが白粉で覆われているため灰色に見える（写真1）。

イ 孵化幼虫は淡黄色で、2～4齢幼虫は光沢のある黒色で周囲に白色口物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する。4齢幼虫は長さ約1mmである（写真2）。

ウ 卵は長さ0.2mm、淡黄色の勾玉状で、基部には短い柄がある。

(2) 生態

ア 卵、1～4齢幼虫を経て成虫になる不完全変態の昆虫である。既発生地域では年間3～4世代を繰り返すが、主に3齢及び4齢幼虫で越冬し、越冬世代成虫の発生時期が一番茶の生育期～摘採期と重なる。

イ 幼虫は葉裏に寄生し、孵化直後の幼虫は歩行移動するが、定着後の幼虫は移動しない。

ウ 成虫の寿命は約4日と短い、羽化後間もなく交尾し、主に葉裏に産卵する。

エ ヒサカキの他、チャ、サザンカ、サカキ、シキミ等にも寄生する。

(3) 被害

ア 成虫は新芽に群がり吸汁加害する。

イ 幼虫は葉裏に寄生して吸汁加害するほか、幼虫が排泄する甘露によりすす病が誘発される。

ウ 成虫の発生が茶葉摘採期と重なるため、摘採作業中に作業者が成虫を吸い込む等の不快感が問題となる。

(4) 分布

ア 東アジアの熱帯から温帯に分布し、中国ではチャの重要害虫である。

5 防除対策

- (1) ヒサカキにおいて本種に対する登録農薬はないため早期発見に努め、発生を認めた場合は布等でこすり落とすか、寄生部位が下位であれば寄生葉を除去する。なお、除去した葉は本種の発生源となるため、放置せず土中に埋設する等、適切に処理する。
- (2) 本種の既発生県からヒサカキ等の寄主植物の苗木を購入する場合は、必ず寄生のないことを確認する。
- (3) 幼虫は下位葉、成虫は新芽によく集まるので、定期的にこれらの部分の葉裏を観察し、早期発見に努める。
- (4) 成虫は黄色に誘引されるため、黄色粘着トラップをほ場に設置し、発生を確認する。
- (5) 本種は急速に増殖するので、発生園の近隣に茶園がある場合は特に注意が必要である。

6 参考資料

「チャの新害虫チャトゲコナジラミの防除マニュアル」

編集：ミカントゲコナジラミ(チャトゲコナジラミ)研究推進連絡会

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/index.html>



写真1 雌成虫



写真2 幼虫